「令和２年度新しいつながり創出支援事業」報告書概要版

１　目　的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、高齢者等が直接集まり、支え合う活動が難しい状況の中、オンラインによる「新しいつながり」を創出することを目的に実施した。

２　概　要

＜実施期間＞　令和２年 10 月 27 日～令和３年２月 28 日

＜参加市町＞　下田市、河津町、西伊豆町、沼津市、伊豆市、長泉町、
静岡市、藤枝市、牧之原市、菊川市（全 10 市町）

＜サポート＞　説明会の実施、タブレットの初期設定および配布、運用サポート、マニュアルの作成

３　各市町の取組

	オンライン体操教室	オンラインセミナー	オンライン認知症カフェ	オンライン買い物支援	自動運転実証実験オンライン中継	オンライン帰省	オンライン保健・栄養指導	オンライン離乳食教室	タブレット講習会
下田市				○	○			○	
河津町							○		
西伊豆町		○				○			○
沼津市			○						
伊豆市	○			○					○
長泉町	○								
静岡市		○		○					○
藤枝市	○		○						
牧之原市	○								
菊川市	○								
計	5	2	2	3	1	1	1	1	3

４　成　果

（１）オンラインを活用した新しいつながりの創出

・オンラインを活用した体操教室、通いの場、認知症カフェなど９種の取組を実施することができ、アンケート結果によると７割の参加者がタブレットの活用に、満足感や利便性を得た。

・特に買い物支援、体操教室、認知症カフェでは、複数の市町、団体間で情報共有しつつ事業展開できた。

（２）オンラインサポートの手法の蓄積

・運営サポートは、電話とオンライン、現地訪問を組み合わせて実施したことで、感染症対策に留意しつつ、操作に対する参加者の不明点を迅速に解決できた。

・細かなコツやノウハウをまとめ、操作・運用マニュアルを操作説明会等で配布したことで、参加者が操作方法を自宅等で復習、確認できた。

（３）参加者の多様なつながりの創出

・参加者同士のオンラインの交流が活発化し、県外など遠隔地在住者との交流も進んだ。

・実施団体参加者が運用方法を習得し、参加者が所属する別団体にもオンラインの取組が波及した。

５　今後の展望

（１）オンラインを活用するためのサポート体制

操作方法を難しいと感じる高齢者に利用を促すためには、操作セミナーとサポート体制の構築が継続して必要である。他事業との組み合わせで、地域におけるオンライン事業のサポート体制を構築する自治体が増えており、操作説明会に加えて、今回作成したマニュアル等を活用しながら、サポート体制を構築していく必要がある。

（２）タブレットの確保

県社会福祉協議会の「社会福祉事業振興のための助成金」等を活用してタブレットの調達を検討する団体がある。ＰＣやスマートフォンを持っていない参加者には、このような行政機関等の制度も利用しながら、タブレットを確保していく必要がある。また、沼津市の「ほっとカフェ文化村」や藤枝市の「ほっと会」は、個人所有の PC、スマートフォンなどに Zoom アプリをインストールしてオンラインの認知症カフェを継続する。

（３）対面による活動との適切な組み合わせ

公共施設のインターネット環境整備に伴い、タブレットを活用した包括的な支援が可能になりつつある。引き続き、オンラインの会議や買い物支援、オンラインと対面を組み合わせた体操教室を計画している市町もある。オンラインは、感染症対策のみならず、熱中症対策や移動手段を確保できない人向けにも大変有効である。オンラインでのつながりを基本に、折に触れて対面での事業を実施するなど、つながりの継続が容易になるよう、状況に応じた適切な組み合わせが期待される。

オンライン認知症カフェ（沼津市）

オンライン体操教室（菊川市）

オンライン買い物支援（下田市）

オンライン帰省（西伊豆町）